



「平成24年度土砂災害防止に関する 絵画・作文」作文の部入賞作品

広報薩摩川内4月10日号「まちの話題」で紹介した、「平成24年度土砂災害防止に関する絵画・作文」作文の部入賞作品を掲載します。

作文(小学生)の部

国土交通省 事務次官賞

『どしゃくずれ』



長浜小学校1年
森遥臣

6がつ21には、おとうさんのたんじょうびでした。でも、せつかくのケーキもたべるとは、できませんでした。

そのひ、ぼくが、がつこうからかえるとき、いえのすぐかくのがけが、くずれていました。そこに、おねえちゃんといっしょにつくったちいさなひみつもちも、くずれていました。木やはっぱやししが、ごろごろと落ちていました。ぼくは、おもわずこわくなって、すぐいえのなかにはいりました。そして、おかあさんを見て、ほっとしました。おかあさんは、

「はるが、とおっているときに、くずれなくてよかった。」

でも、そのあと、あめがつよいしやわあみたい、じゃばじゃばとふっていたから、みんなどうしようがっこうにとまることになりました。ねるとき、マットのうちは、

かたていたくてびっくりしました。よるのしようがっこうは、おうちよりくらかったので、こわくてすぐにはねむれませんでした。だから、あさおきたら、おとうさんにだっこしてもらって、おうちに帰って、またすぐにねました。

つぎのひから、しようがっこうにいくときは、とおまわりになるほどきょうを、わたることにしました。おとうさんが、「また、くずれてくるかもしれないから、ひとりでおいたら、だめだよ。」と、いつてくれました。

それから、まににち、くずれたところを「いやだな。」とおもいながらみながら、くずれませんが、「このひりながら、いまは、どしゃくずれがあったところも、ひとりでおともいいです。でも、もしまたたかさんのあめがふったら、おとうさんのやくそくを、ぼくは、かならずまもります。」

「らいねんは、おとうさんのたんじょうかいが、できたらいいな。」

作文(中学生)の部

鹿児島県知事表彰 優秀賞

『土砂災害に備えて』



祁答院中学校2年
若杉里紗

何事も、絶対に起きない、自分たちは大

丈夫という油断は、大きな事故につながるんだと、わたしはニュースを見て思うようになりました。

それはお盆真つただ中のことでした。ふとテレビをつけると、豪雨ではらんした川と、それによって流された橋と家と車が映っていました。その日、京都府宇治市は、一時間に二百ミリ以上の豪雨になり、床下浸水や土砂災害などの被害が多く出ました。

きっと多くの人が、前日までは他の地方が被害にあっている様子を観て、心配していたことでしょう。でも、自分の所にもくるかもしれない、危険だから備えておこうと少しでも思った人が、はたしてどれくらいいたのでしょうか。きっと自分の所も被害に遭うことなんて、考えてもみなかった人がほとんどなのではないでしょうか。わたしだって、正直言って、他の地方が被害にあっても、自分の所は大丈夫だと心のどこかで思っていました。しかし、今回のニュースで、突然の出来事にとまどい慌てる人たちを見て、わたしも災害が起こる可能性を考えて、生活していかなければならないと思うようになりました。

では、実際にどのような対策を行えばいいのでしょうか。わたしは母に聞いてみました。母は、「じゃあ、もし里紗が、近くで土砂災害があっても、家に自分一人しかいなかったらどうする?」

わたしはいろいろ考えて、まず家族に連絡をとることが大事だと思って母に言いました。すると母は「そうだね。何かあっても、慌てずに、素早く連絡がとれるようにしておかなくてはいけないわね。もし本当に災害が起きたら、すぐくわててしまいうから、落ち着いて行動できるように、前もって連絡手段や番号を確認することが大事だよ。」

「それから、逃げる場所も決めておく必要があるよ。」と母は続けて言いました。わたしはそれを聞いて、もっと具体的なことも決めなければいけないと思いました。たとえば、もし思っていたところに連絡がつかなかったらどうすればいいのか、逃げる際にはどこにどうやって、何を持っていくべきなのかなど、実際に災害にあった時の事をもっとくわしく考えて備えようと思いました。

わたしは、この作文を書いたことをきっかけに、次のことを家族と話し合おうと思いました。

一、連絡先と連絡手段について
二、連絡がつかなかった場合はどうすればよいか
三、共通の避難場所はどうするか。
四、移動手段や持っていくものについて
わたしはこの4つを家族と話し合って、災害にしっかり備えたいと思いました。

今回の災害や、あの東日本大震災できっと、前もって備えておけば、油断していなければと悔やみ、涙を流した人がたくさんいたと思います。そうならないためには、日頃から災害に備えて、いつ何が起きても落ちついて行動できるようにしたいと、今回のことをきっかけに、わたしは強く思いました。

(原文掲載)



ふれあい活動 (敬老園)



波濤太鼓



カメの放流



遠泳大会



綱引き大会



和船ろ漕ぎ体験



元気塾

長浜小学校

わくわく登校 満足下校

創立133年 校訓「やさしく かしくく たくましく」

本校は、下甌島のほぼ中央に位置し、長浜湾を望む校区では最も見晴らしの良い高台にあります。

本年度は、2年ぶりに各学年1学級ずつの6学級となり、全校児童59人で元気よくスタートしています。

昨年度は青瀬小学校、本年度は西山小学校との統合があり、校区も広がり、地域の方々や保護者の皆さまとさまざまな特色のある教育活動に取り組んでいます。

【特色ある教育活動】

- ① 和船ろ漕ぎ体験
長浜港に2艇の和船を係留し、ろ漕ぎの達人から技を伝授していただきます。
- ② ウミガメ保護活動
毎年5月から6月にかけて青瀬海岸に上陸産卵するアカウミガメの卵を校庭のふ化場で約2カ月かけてふ化させます。ふ化した子ガメたちを幼稚園児や保護者と一緒に、青瀬海岸に放流します。

③ 波濤太鼓の継承
芸能保存会の方々のご指導により子どもたちへの継承が行われており、学習発表会などで披露されています。

④ 児童のボランティア活動
甌島の玄関口である長浜港付近の清掃をふるさと美化活動と称して年2回取り組んでいます。また、グリーンタイムでは校内の緑化に励んでいます。地域の高齢者や敬老園の入所者ともふれあい活動を展開しています。

⑤ 学力の定着(島立ちに向けて)
子どもたちの知的好奇心をくすぐる暗唱や長浜マスタークードなどで、子どもたちは自分なりに取り組みながら少しずつ確実に自信を付けてきています。

自然豊かな学習環境を活かした長浜小学校は、純朴な子どもたちでいっぱい입니다。
※1 甌島の子どもたちは中学校を卒業すると、進学のために島を離れます。
※2 全学年の基礎・基本問題をいつでもどの学年でも挑戦できるようにカードにまとめたもの



VOICE

長浜小学校 校長 満彦

「わくわく登校 満足下校」。子どもたちは毎日楽しい学校生活を送っています。上級生が下級生をお世話しながら緑化活動などに取り組む「縦割り浜の子班活動」、児童会を中心とした「あいさつ運動」や「チャレンジ運動作戦」など今日も子どもたちの主体的な活動が展開されています。